

令和4年2月16日 全員協議会資料（抜粋）

市民ギャラリー、茅ヶ崎駅前市民窓口センター及び萩園市民窓口センターの
廃止等並びにネスパ茅ヶ崎ビル等の今後の利活用について

5 図書業務（配本所）の機能移転

(1) 機能移転の理由

無人受取ロッカーを活用した非対面型配本所を設置することにより、利用者の利便性の向上及び更なる読書推進を図るとともに、貸出業務における感染症リスクを低減するため、ネスパ茅ヶ崎ビルにおける図書業務（配本所）の機能移転を行います。当該提案に至った経緯は、次のとおりとなります。

ア 市民ギャラリーの廃止

上記3に基づき、市民ギャラリーの令和5年9月末の廃止が提案されました。ネスパ茅ヶ崎ビルにおける図書業務（配本所）の運営は、市民ギャラリーの職員が兼務で行っているため、図書業務（配本所）を引き続き運営するには、人件費が必要になるとともに、運営スペースが必要とされます。

イ 図書館ネットワークの整備

図書館法では、図書館奉仕の規定を設け、詳細は図書館の設置及び運営上の望ましい基準（文科省告示）に示されています。公立図書館の設置に当たっては、サービス対象地域の人口分布等を勘案して、適切な位置等を確保するよう努めることとされています。住民の図書館利用は、施設からの距離が遠くなるにつれて、急速に減少します。また、住民の日常生活における通勤や買物動線など、日常の生活動線への配慮も重要です。この考え方にに基づき、本市ではこれまで分館、図書室、配本所を設置し、図書館ネットワークの整備を進めてきました。その結果、貸出点数の4割近くが図書室・配本所となっています。

加えて、基準には「利用者及び住民の利用を促進するため、開館日・開館時間の設定に当たっては、地域の実情や利用者及び住民の多様な生活時間等に配慮する」とされています。図書館利用者アンケートにおいては、「開館時間を21時、22時まで延長してほしい」という声があります。昼夜間人口比率から推測されるように、本市は東京・横浜への通勤にも適しており、茅ヶ崎駅における1日の乗車人員（約4万人）は、ほとんどが茅ヶ崎市民（在学・在勤を含む）と推測されます。

ウ 図書業務における新型コロナウイルス感染症への対応

新型コロナウイルス感染症への対応としては、令和2年4月に「茅ヶ崎市新型コロナウイルス感染症対策政策パッケージ」を策定し、感染拡大防止策や緊急経済・生活対策、危機事態終息後の強靱化対策までを総合的に推進することとしています。

図書館においては、令和2年3月から約3ヶ月間、臨時休館することとしましたが、図書館開館を求める声が多く上がったことから、他の公共施設に先んじて、予約資料

の受取を再開した経緯があります。今後、新たな感染症の感染拡大が起きても、市民の学びの機会を止めない図書館業務の強靱化対策に取り組む必要があります。

また、図書業務（配本所）の利用数はコロナ禍以前よりも伸びており、本館の混雑を避けて短時間で利用するニーズを反映しているものと思われます。

(2) ネスパ茅ヶ崎ビルにおける図書業務（配本所）

ア 開館日数

359日（365日－年末年始6日：12/29～1/3）

イ 開館時間

月曜日～金曜日 9時～19時30分（祝日・年末年始を除く）

土曜日・日曜日・祝日 8時30分～19時30分（年末年始を除く）

※ 昼休みなし

ウ 職員

市民ギャラリーの会計年度任用職員が兼務で従事（日中2人、夜間1人）

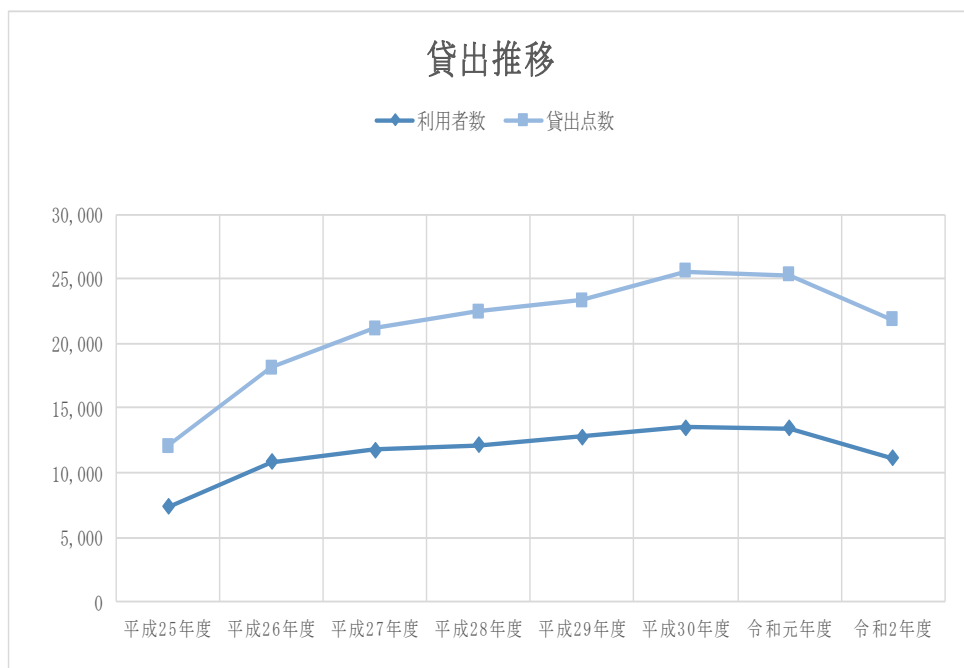
エ 貸出推移

年々増加しています。令和3年度は、4～12月の平均から推測すると、利用者数13,892人、貸出点数26,275点です。

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
利用者数（人）	7,362	10,827	11,779	12,112	12,811	13,540	13,415	11,091
貸出点数（点）	12,050	18,160	21,148	22,455	23,373	25,549	25,272	21,797

※令和元年度は3月休室

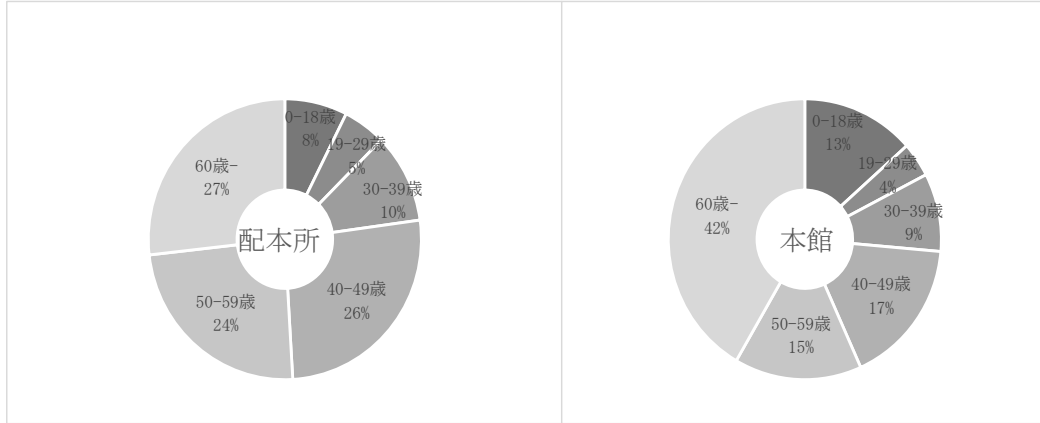
※令和2年度は4～5月休室



オ 利用者の年齢層（令和元年）

図書業務（配本所）と本館における利用者の年齢層は、図書業務（配本所）は40～50歳代の利用が多く、本館は60歳代以上の利用が多いです。

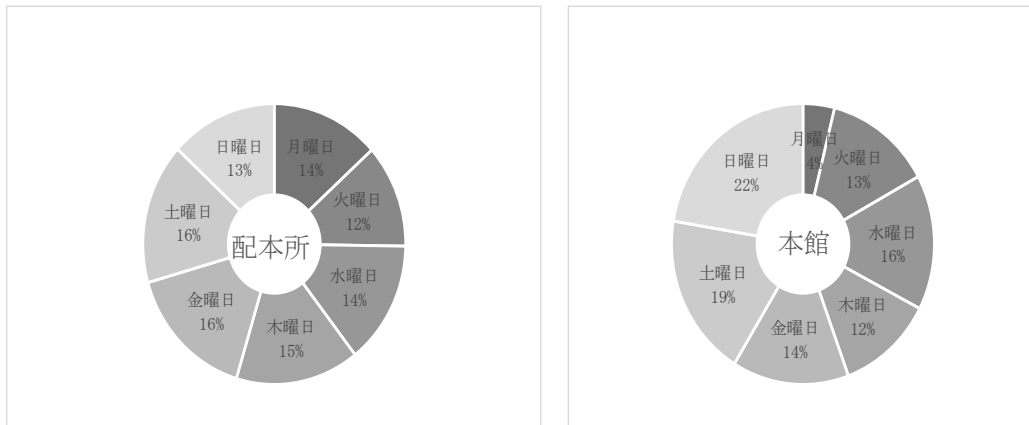
施設	0-18歳	19-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60歳-	合計
配本所 (人)	996	680	1,385	3,522	3,239	3,593	13,415
本館 (人)	18,069	5,371	12,128	22,758	20,327	56,083	134,736



カ 利用曜日（令和元年）

本館は土・日曜日に集中しますが、図書業務（配本所）は満遍なくすべての曜日で利用があります。

施設	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日	合計
配本所 (人)	1,786	1,600	1,908	2,039	2,135	2,179	1,768	13,415
本館 (人)	5,230	17,715	20,981	15,884	19,350	25,433	30,143	134,736



(3) 市民サービスの補完：無人受取ロッカーによる非対面型配本所の設置

上記(2)オのとおり、ネスパ茅ヶ崎ビルにおける図書業務（配本所）の利用者層の中心は40～50歳代の現役世代で、17時以降の利用も3割近くに上ります。平日19時までには本館へ行くことができない、月曜日が休日であるなど、制約がある利用者にとって本館利用は難しく、利用機会の喪失となることが予見されます。また、図書館利用者アンケートにおいても夜間開館を希望する声があることから、機能移転により夜間・休館日貸出しが可能となることで、新しい利用者を開拓し、読書推進にも繋がると考えられます。

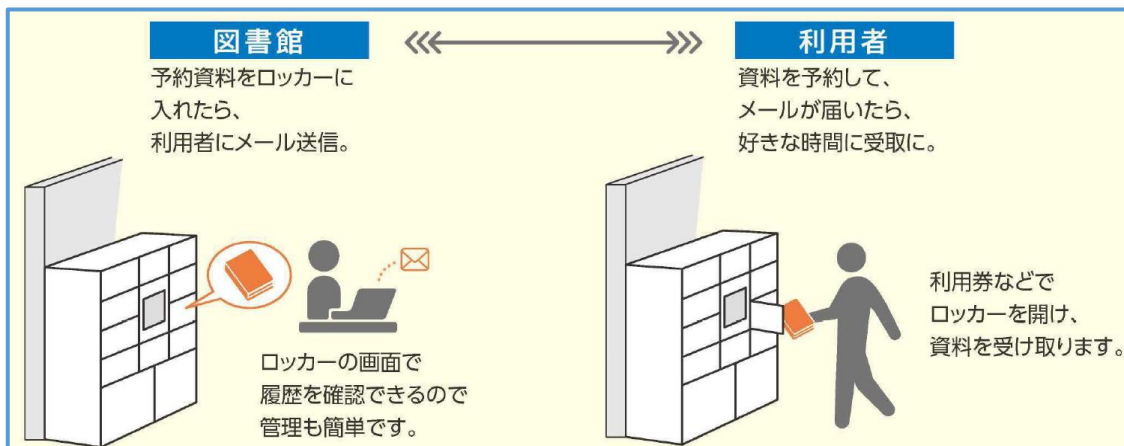
また、令和2年4月に策定された「茅ヶ崎市新型コロナウイルス感染症対策政策パッケージ」では、教育環境の脆弱性が指摘されたところです。今後、新たな感染症の拡大が起きても市民の学びを止めない取組として、非対面型の無人受取ロッカーの設置は有効であると考えます。

以上のことから、市民ギャラリーの廃止に伴うネスパ茅ヶ崎ビルにおける図書業務（配本所）のあり方については、本館の利用が可能な方については、本館への利用を奨励しつつ、駅に近い場所に無人受取ロッカーによる非対面型配本所を設置し、図書業務（配本所）の機能移転による発展的解消を図ります。

(4) 無人受取ロッカー

無人受取ロッカーとは、予約した図書館資料を宅配ロッカーのように受け取るシステムです。

(利用イメージ)



(設置イメージ) 高さ 1,290mm×横 2,400mm×奥行 450mm



(5) メリット・デメリット

ア メリット

(イ) 利用者の都合に合わせた（夜間・休館日）貸出が可能

- (イ) ネスパ茅ヶ崎ビルにおける図書業務（配本所）の利用者層と親和性が高い
 - ネットで予約、パッと行ってパッと借りる
- (ウ) 若い世代の更なる利用が見込める
 - 学生や会社員など、時間的に図書館本館の利用が難しい層への読書推進
- (エ) 新しい生活様式（非接触、DX）に合致したサービスの提供
- (オ) 対面では借りにくい本（精神保健、病気に関する本等）の利用ハードルを下げる
- (カ) 市外へのアピール
 - 駅近辺での無人受取ロッカー設置は県内初

イ デメリット

- (ア) 「返して借りる」ができない
 - 図書の場合は、茅ヶ崎駅自由通路内南側にある返却ポスト（下記写真参照）をうまく利用することで解消
- (イ) 「リクエスト」（茅ヶ崎市で所蔵がない資料の予約）ができない
 - 次期システム更新時に、ホームページからリクエストを受け付ける機能の追加について検討
- (ウ) ボックスサイズを超える資料は貸出できない
 - コンパクトサイズの寸法は245mm×415mm×115mm。A4サイズは可。紙芝居や大型本は不可ですが、返却ポストの入口と同等
- (エ) 収納数を上回る受取人数には対応不可
 - ネスパ茅ヶ崎ビルにおける図書業務（配本所）で置き置きとなっている利用者数は100人を超え、1日当たりの貸出人数は35人前後、多いと40人を超えます。イメージ写真のロッカーは46ボックスとなるため、一部の利用者が本館を利用したとしても、潜在的な利用者が掘り起こされれば、足りなくなる可能性があります。先行事例では、収納数を上回る場合は本館受取に変更する等の対応をしていますが、その都度、事務量が増えることとなります。

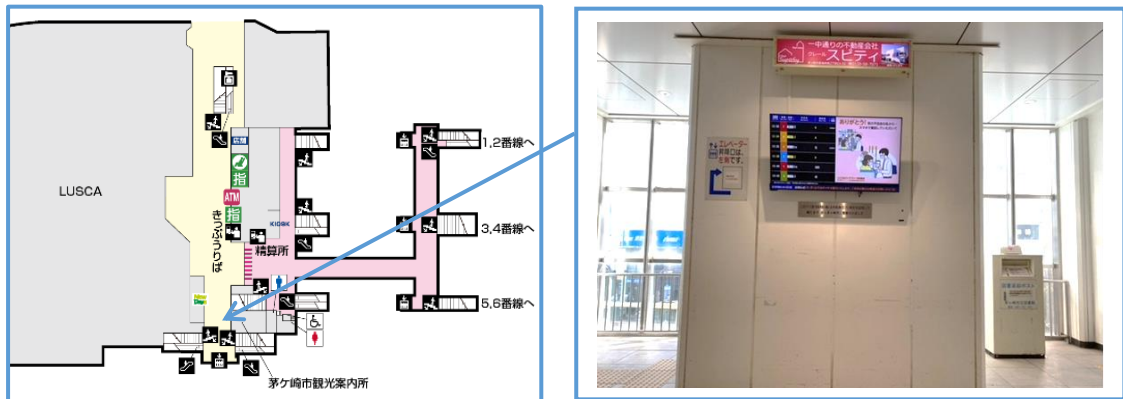
茅ヶ崎駅自由通路内返却ポスト



(6) 設置場所

24時間365日受取可能という無人受取ロッカーの機能を最大限に生かすため、茅ヶ崎駅自由通路内へ設置したいと考えます。なお、管理者とは設置について交渉しており、好感触を得ています。

茅ヶ崎駅自由通路内 返却ポストに隣接するため、利便性が高いです。



(7) 費用・効果額

ア 無人受取ロッカー

下表のうち、「交付金対象」の○は、国庫補助金（新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金）の活用を検討します。

交付金は令和4年度事業が対象のため、事業の開始は令和5年3月を見込みます。

交付金の活用により、初期費用、保守管理費（5年間）は一般財源の持ち出しがありません。

(単位：円)

初期費用	金額	交付金対象
ロッカー（運搬・設置費・税込）	（メーカー定価）6,952,000	○
システム改修費（税込）	704,000	○
L A N配線工事	交渉中	○
電気配線工事	交渉中	○
合計	—	—

(単位：円)

維持費用（年額）	金額	交付金対象
保守管理費 →年1回の点検、コールセンター対応	143,000	○ (5年分)
建物総合損害共済（保険）	699	×※
人件費 →ロッカーへの資料預入・期限切れ管理	745,252 (1,050円×2時間×1人工 ×310日+夏休+年休+旅 費+共済費)	×
L A N回線使用料	(月額28,600) 343,200	×※

電気料金	賃料に含	×※
床面賃借料	100,000	×※
合計	1,332,151	—

※ 令和4年度中の費用（1か月分）は○。令和5年度以降が×。

イ ネスパ茅ヶ崎ビルにおける図書業務（配本所）を継続

（単位：円）

維持費用（年額）	金額
人件費	4,950,268 (1,050円×6時間×2人工 ×359日+夏休+年休+旅 費+共済費)
L A N回線使用料	(月額28,600) 343,200
業務端末、O P A C賃借料	約300,000
合計	5,593,468

ウ 効果額（＝アとイの差額（初期費用は±0とする））

（単位：円）

維持費用のみ（5年後～）	金額
合計	4,261,317

（略）

9 スケジュール

時期	内容	
令和3年度	令和4年1～2月	政策調整会議・政策会議
	令和4年2月	市議会：全員協議会
	令和4年2月	市民窓口センター廃止（茅ヶ崎駅前・萩園）についての自治会等周知 萩園いこいの里指定管理者説明（萩園市民窓口センター廃止） ネスパ茅ヶ崎ビル利活用にかかる関係団体等協議・説明
	令和4年2月	市民アンケート（市民ギャラリー廃止に係る意見収集） ※ 茅ヶ崎駅前市民窓口センター廃止及び図書業務機能移転についても記載
令和4年度	令和4年6月	パブリックコメント
	令和4年7月～	図書業務無人受取ロッカー仕様、運用検討
	令和4年9月	図書業務補正予算
	令和4年10月	市民窓口センター廃止（茅ヶ崎駅前・萩園）についての市民周知 市民ギャラリー廃止についての市民周知

	令和4年10月	例規等審査会（市民ギャラリー条例廃止等及び市民窓口センター設置規則廃止等）
	令和4年12月	市議会定例会（市民ギャラリー条例廃止）
	令和5年1月	図書業務無人受取ロッカー入札・契約 図書業務機能移転についての市民周知
	令和5年3月	図書業務無人受取ロッカー設置工事、プレ運用開始 図書業務廃止
令和5年度	令和5年4月	図書業務無人受取ロッカー本格運用開始
	令和5年9月	市民ギャラリー廃止 市民窓口センター廃止（茅ヶ崎駅前・萩園）